

令和7年度 第3回学校運営協議会 議事録

○日時 12月6日(土) 11:30~12:

○場所 2階PC室

○出席者 委員 倉田慎一(校長) 新井立夫委員 向谷朱美委員 牧野桃子委員 高橋哲也委員
山上達彦委員(オンラインでの参加)、稲葉奈津子委員(オンラインでの参加)
職員 原晶子(副校長) 水本由紀子(教頭)

○次第

1 学校長挨拶

2 協議事項

(1) 学校説明会に係る意見聴取

委員:説明がわかりやすい。

委員:司会の生徒の声が聞きやすく、生徒の説明もわかりやすかった。教育課程の多様性が魅力である。

委員:参加者も真剣に聞いていた。学校の目指す方向性がわかった。制服が学校選択の理由の一つになるのは意外である。統合が予定されているが、折角学力のレベルも上がってきているので、いいところは残してほしい。

(2) 令和7年度学校評価報告書(中間報告)について

学校評価部会、地域連携部会、学習支援部会を合同で実施

【質問・意見】

委員:「10の技法」の「多角的に見る」というのは他者の視点を取り入れるという意味でもとても大切である。身だしなみを整えることも大切で、最近の西浜高生は好感が持てる。キャリア教育は中学でもとても大事にして、探究活動を伴ったキャリア教育を推進している。高校とも情報交換ができればよい。

委員:地域では、まだ西浜の生徒の自転車の乗り方等に対して厳しい意見が多い。自転車の罰則も厳しくなることもあり、今後の指導をよろしく願いたい。推進協だよりを9月に発行し、校長先生、副校長先生の紹介記事を載せた。今後は、高校の活動について紹介していきたい。

委員:プログラミング教育をどうとらえていくかが大切である。本当の意味の探究は、知識を鍛え同じことを繰り返す必要があり、困難や苦しさを伴い、楽しくない。しかし、そこから新たなことを生み出す力を身に付けることができ、社会的自立につながる。今の高校生は進路先で真剣に勉強することを避ける傾向にある。資格取得ができる学科などは避け、ふわっとした学科を選ぶことが多い。進路指導は出口を定めることが必要である。学校と地域、保護者の連携は大切で、PTAはあった方がよい。

委員:進路指導について、今は選ばなければ大学に全員が入れる時代である。なんとなく大学へ行くのではなく、生徒がどういうことをやりたいのか、しっかり指導してほしい。そうでないと自分に合わないと安易に辞めてしまう。高校のキャリア教育でしっかり説明してほしい。部活動は、協調性や調和性、伝統を学ぶなど大切な力を身につけることができる。学ぶ機会が減ることは残念である。部活動の在り方を見直し、生徒のやりたいことを支援してほしい。

委員：授業評価の結果が楽しみである。自己肯定感をあげる良い方法があるなら知りたい。ポートフォリオを活用しているのはよい。藤沢西高校は年3回ではなく、2週間から1か月に書いている。他校の状況の情報提供をすることができるので要望があれば応えたい。リクルートは社員の平均年齢が34歳と若い。ステップアップのしかたを求め続けている。社員研修で、何がしたいか（will）、何ができるか（can）、何をしなければならないか（must）をあきらかにして、結果として社員のモチベーションにつながった。先生方の参考になれば幸いである。

3 事務連絡

今後の予定

第4回学校運営協議会 令和8年3月 書面開催